

《公告 500号》

平成30年度【決算報告】

第115回組合会が、令和元年7月11日(木)にロッテ本社ビルにて開催されました。

平成30年度の収入・支出決算及び残金処分について承認されましたので公告いたします。

総収支ベース ◆「一般勘定 3億7,065万円」 ◆「介護勘定 465万円」の収支残となりました。

一般勘定において、支出では保険給付費13億9,469万円。納付金が10億1,543万円での二つの合計で約24億円となり、我々組合員の為の医療費と高齢者医療に対する拠出金を合わせるとこの二つで収入の約82%を占めることになりました。

また、激減した「別途積立金」も今期、3億7,056万円を積立る事ができ合計で15億6,402万円まで積み立てることができました。

ただし、「団塊の世代」と呼ばれる方々が後期高齢者の仲間入りをする令和4年(2022年)以降は、納付金が一気に増額し

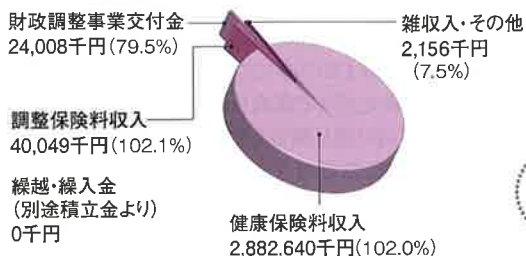
て収支が悪化すると想定されます。

また別途積立金は、一時的に保険料が不足する5月～7月において取り崩して対応しています。

介護保険料収入としては、3億1,147万円が465万円の収支残になりました。

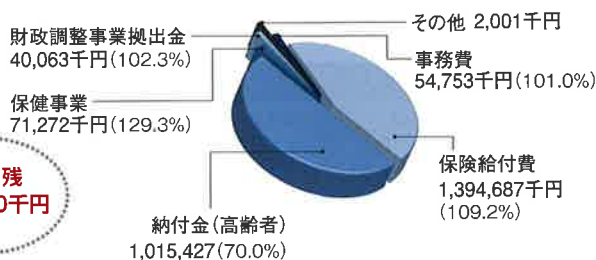
ただし、平成30年度においては700万円を繰越金として計上しておりますので、経常赤字となりました。

《一般勘定》 収入 計 2,948,853千円 (91.9%) ※()は前年比

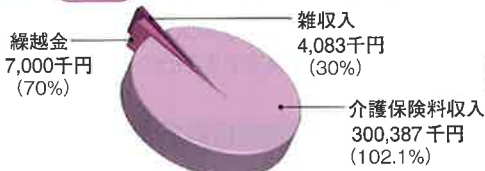


収支残 370,650千円

支出 計 2,578,203千円 (89.6%) ※()は前年比

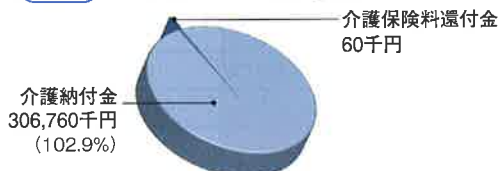


《介護勘定》 収入 計 311,470千円 (101.2%) ※()は前年比



収支残 4,650千円

支出 計 306,820千円 (102.9%) ※()は前年比



《一般勘定残金処分》 別途積立金繰入 370,563千円
財政調整事業繰越金 87千円

《介護勘定残金処分》 準備金繰入 0千円
繰越金 4,650千円

《納付金等の推移》



◆ 納付金等において平成30年度は、前年に対し約4億3千万円減少して財政面で余裕を持たせる効果を発揮しました。
令和元年度でも同様に前期高齢者納付金が低めに抑えられる予定ですが、後期高齢者支援金は、高齢者数の増加、医療費の高騰等の要因から上昇傾向が続くと考えられ、財政は悪化していく予想です。

《被保険者数と被扶養者数の推移》



◆ 被保険者と被扶養者の数も平成22年度から平均化していました。しかし、25年度においては、被保険者が約300名減少しましたが、平成30年度はほぼ前年並みの人数となりました。被扶養者に関しては、若干の減少が続いております。